

令和4年度 第3回 甲賀市環境審議会 議事摘録

- 開催日時** 令和4年(2022年)8月26日(金)
14時00分～15時45分
- 開催場所** 甲賀市役所 会議室301
- 出席委員(敬称略)** 7名
〔会長〕 竺文彦
〔委員〕 中島仁史、金子利佳、石山利則、村木一志、青木純一、高橋美香(欠席:大西智子)
- 事務局(敬称略)** 5名
〔市民環境部〕 澤田いすづ
〔生活環境課〕 前田三嗣、相原功志、西野久俊、北村健太
〔甲賀市地球温暖化対策実行計画策定支援業務受託業者〕
株式会社ジャパンインターナショナル総合研究所 2名
- 傍聴** 2名
- 会議次第**
1. 市民憲章唱和
 2. あいさつ
 3. 審議事項
(1) 甲賀市地球温暖化対策実行計画について
 4. 報告事項
(1) 甲賀市環境未来都市宣言(案)について
- 配布資料**
- ・資料1 甲賀市地球温暖化対策実行計画 策定概要
 - ・資料2 甲賀市環境未来都市宣言(案)

会議内容

1. 市民憲章唱和（司会朗読）

2. あいさつ（会長）

※議事の都合上、報告事項→審議事項の順に進行する。

4. 報告事項

（1）甲賀市環境未来都市宣言（案）について

事務局＞（資料2・甲賀市環境未来都市宣言（案）について説明）

会長＞ 宣言を作る主体は市長と議長だが、我々の意見が伝わっていると思う。宣言は、最終的にはこのような形になると思う。ご意見やご感想があれば。

委員＞ ひとつづくりという表現が入っているので良いと思う。

会長＞ 未来の子どもたちに引き継ぐという表現もある。宣言後にどういう形で広報をする予定か。

事務局＞ 9月の議会最終日終了後に宣言式を行い、議長と市長に宣言へサインをいただく。マスコミにも来ていただき、別会場にて質疑回答を行う予定。市の広報紙や様々な媒体でPRしようと考えている。

宣言後の事業内容は、これから議論していただく計画で定め、市全体で取り組んでいく機運を高めたい。

会長＞ 市民に知っていただくことが大事。例えば垂れ幕でPRするなど、皆さんが知る機会が必要だと思う。知らせる方法を考えてほしい。イベント等の機会で発信していくといった検討も必要。また、マスコミにも来ていただけるのは良いことだと思う。委員の皆様からのご意見はどうか。

委員＞ アイコンがあれば、色々なところで見てもらえるのではないか。広報やチラシでアイコンをPRできると、より多くの人々に広がっていくと思う。

会長＞ アイコンとはQRコードのようなものを想定されているのか。

委員＞ ロゴやマークをイメージしている。

会長＞ 別の事業になるかもしれないが、市民に多く触れる機会があった方が良く思う。

3. 審議事項（会長進行）

（1）甲賀市地球温暖化対策実行計画について

事務局、業者＞（資料1・甲賀市地球温暖化対策実行計画 策定概要について説明）

会長＞ 他市町と大きく違ったものができるとは思わないが、市として何をしていくのかということを考えていく必要がある。自由にご意見をいただきたい。

委員＞ 事務事業編は第3期まで続いている。これはどのように見直すのか。事務事業編も示してほしい。

事務局＞ 第3期の事務事業計画の期間は令和3年度までだったが、延長して今年度に見直し、市域全体の方向性を示す区域施策編と合わせた実行計画に、事務事業編

として策定したい。

委員> 事務事業計画がどれだけ進捗したのかということ、あわせて見せてほしい。

委員> 促進区域とはどういうことか。

事務局> 例えば、水力発電を重点的にやるという地域を、制度を含めた総合的な視点から検討し、地域のご理解をいただいて設定する地域のこと。環境に配慮しながら、再生可能エネルギーの導入を促進していく区域を決めたいと考えている。法や県の基準を踏まえ選定する予定。他自治体の事例では、工業地域の屋上を太陽光パネルの促進区域と設定することも考えられる。

会長> 他にはどうか。こういうことができるのではいかといったフリートークを進めたい。まずは私から意見を伝える。

(スライドを用いて説明)

会長> 甲賀市の生ごみのたい肥化に関わっている。生ごみを集めて、たい肥だけでなく、メタン発酵を作れるようにしたい。紙や生ごみを燃やして発電ができれば、家庭の暮らしから発電につなげることができる。生ごみの収集状況に課題はあるものの、メタン発酵を実現したい。

三重県の会社がメタン発酵をしている。京都のホテルが生ごみから発電をし、エネルギーをつくっている。その取り組みをしているのがこの会社。バイオガスのプラントに生ごみを入れ、発電して電気を販売している。

メタン発酵が進まないのは、取り出した後に廃液が出るため。ヨーロッパでは、廃液を液肥として活用している。日本では同じようにできず、廃液を綺麗にする必要があり、コストがかかる。

ドイツでは、メタン発酵が進んでいる。農家が個人もしくは共同でプラントを持っている。プラントは1万か所以上ある。中には牛を売って農家をやめ、飼料のトウモロコシから発電し、電気を売るようになった方もいる。

岡山県真庭市でもメタン発酵をしている。廃液は農家に分配し、肥料にしている。農家の農作物を販売するメタン発電業者もいて、他市に真庭市場という店を出している。

京都市も生ごみから発電をしている。収集したごみを機械で分別し、生ごみをメタン発酵している。

ドイツでは、収集ポストを設置し、ガラスや紙などのごみの回収をしている。オランダでは、地下にボックスを埋め込み、場所を取らないごみ収集をしていた。

また、ドイツでは収集ボックスを回収している。紙と生ごみと燃えるゴミという分け方になっている。古い薬品等を回収するボックスもある。

ドイツはどこにもリサイクルコンテナがあり、ごみをもってきて分別して捨てている。

ドイツでは、木材から発電するバイオ発電をしているところもあった。寒い時はオイルで燃やす必要がある。その際に出たお湯を各家に供給している。国内にはお湯のパイプが行きかっており、供給する体制ができている。

見学会で他の農家が見学に来ることもあった。

ドイツは、もともとメタン発酵が盛んに進められていたわけではない。1980年代から関心を持つ人が増え、全国でたい肥化施設をつくり、メタン発酵にシフトしていった。

たい肥化でメタン発酵をしている事例もある。ヨーロッパで広がりつつある。滋賀県はごみからの発電は遅れている。

委員> 市に関するところでは、ごみ処理場の更新がある。単純に焼却するのではなく、建て替えの時に色々と検討していく必要がある。

私の会社ではごみのエタノール化を実証している。他県で10分の1のプラントでエタノールをしている。分別せず、全部ごみを蒸し焼きにして、エタノールにしている。

エタノールにした後、エチレンに戻し、原料にするという流れをつくっている。

販売には至っていないものの、シリコンを使わない太陽光発電も進めている。様々な企業等が研究しており、今後技術革新がみられる分野だと思う。

また、小型の水力発電が市販されている。安価であれば市でも活用の検討をしようか。

委員> どういうポテンシャルがあるのかこれから分析すると思う。ポテンシャルを活かして、削減目標を達成することを目指すことになると思うが、誰がやるのかという主体が出てこなければ実現しないと思う。

事務局> 事業所の意向を把握する必要があると思う。地理的要因も含めて、甲賀市でできることを把握したい。具体的な実施可能性や設備について、今後調査する必要があると思う。行政だけではできないので、事業所と連携し、協議・対応したい。

2030年までにできることを明らかにし定めたい。2050年に向けてというところは大まかな書き方になると思う。

具体的な主体について、書けるところは書きたいが、もちろんそうできないところもある。

委員> お金がかかるバイオ等も含めて、目標の削減を目指して計画に記載するのか。

事務局> 目標として定める部分、誰がやるのかという部分、森林吸収という部分など、書けることは書く。

委員> 住民への補助といったメニューは今後考えていくということか。現在、市でできることを書いていくという認識で良いか。

事務局> その通りである。

委員> 省エネの部分が抜けると困る。企業は費用対効果で省エネを進めている。やらなければ商売にならないという状況にもなっている。

また、古い家やマンションや街灯はLEDになっていないと思う。お金のない区・自治会はLEDにしていないといったことが多い。

新築はZEB・ZEHの方が売れると思う。私の会社で取り扱っているケースでも8割ある。しかし、今住んでいる人はタイミングが来ないと無理である。補助等といった細かな対応をしないと進まないと思う。

委員> 森林を整備しましょう、ZEBをしましょうということは、各部局に渡って

いると思う。それぞれの部局がどう進めるかという調整はどのようにするのか教えてほしい。

事務局＞ 昨年度から、予算編成時に、部局に限らずカーボンニュートラル事業を提案したところを採用するようにしている。

宣言後の方向性も部局横断で統合している。相談をいただいている部局と連携し、市民環境部以外の部局とも一丸となってやっていく。各部局の視点を入れた施策をやっていく。

委員＞ こちらが提案しても、実施できるのだろうかという思いもある。

委員＞ たい肥化が良いと思う。全国に先駆けて甲賀市がやるというのはすごい。しかし、自分がやるかとなると難しい。汚いという理由で、同世代もやっていない。畑がない者がたい肥をもらっても困る。積極的にやっている人は、意識が高い人か、高齢者が同居しているとか。コンポストにも問題があるので、やりづらいと思う。

せっかくシステムがあるので、やることによるお得感やインセンティブがないと行動変容に結びつかないと思う。逆にゴミ袋代を高くするなど、たい肥化をやっていない人にコストがかかるようなわかりやすい仕組みがあると、行動も変わっていくと思う。

委員＞ 家から出る不用品と必要とする他人がマッチングする仕組みがあれば良いと思う。団塊の世代の終活が始まっている中で、手放せない世代が多い。ほぼ無償でも何かをマッチングできる仕組み、行政主導でやってもらえると助かる。

会長＞ ネットでは駄目なのか。

委員＞ ネットはコストがかかるため、強い思いがないとなかなか実行しないと思う。

委員＞ 青空フリーマーケットとか。

委員＞ いつでも交換できるような場所があると良いと思う。上勝町ではそういった取り組みがされている。

委員＞ 児童数が減り小学校でも物が余っているところがあると思う。

委員＞ 新しくできているゴミ処理場では、使用できるものを市民が持って帰れるところがある。リサイクルできるのであれば、そういう仕組みがあると良いと思う。

委員＞ 面倒くさくてできないというのはよく分かる。ただ、そういった意識を変えていく必要があり、そのことが宣言に込められている。

委員＞ 古民家宿泊をやっている。ゴミ箱の数を減らしたところ、宿泊客がゴミを持ち帰るようになった。街中にゴミ箱があるので、そこで捨てようとするのではないか。ゴミ箱を減らすまちというのはどうか。

市役所の自動販売機でも、缶やペットボトルではなく、紙パックの飲み物しかないとか。

リサイクルでポイントを貯められるゴミ箱がある町もある。甲賀市でもそういう取り組みをしてはどうか。

市役所の節電やエアコンの温度を上げるといったことを書いてほしい。

また、宿泊の古民家を薄暗くしているが、そこを宿泊客に評価された。省エネに関する取り組みがイメージ戦略につながることもある。ゴミ箱を置かないといった

イメージ戦略も検討してみてもどうか。

委員> ポイ捨ては以前より減っているように感じる。ごみ箱を置かないことで、ごみを持ち帰るのでごみが少なくなるのでは。

委員> マイコップを持って行って買うというところもある。エコステーションに持って行ったらポイントに交換できるというところもある。

計画について、宣言と取り組みをすべて網羅することは難しいと思うが、宣言と実行計画のつながりをわかりやすく説明してほしい。

委員> 人づくりについては考えているのか。甲賀市では、勉強会が進んでいないという印象がある。草津市は「地球冷やしたい」の取り組みをしており、企業の取り組みや子どもの取り組みの紹介を、自治体を中心となって行っている。甲賀市でも進めていく必要があると思う。組織を新たに立ち上げるのではなく、イベントを実施するというのも重要だと思う。

委員> 景観の分野では、フォーラムを開いて意識を高めるということが計画にあげられたが、実際はほとんどできていない。甲賀市はそういう儲からないことに対する意識が高くない。講座もしっかりやっていく必要があると思う。

事務局> 以前はフェスタをするなどしていた。今では方法も多様化している。ひとつをつくる、啓発をする、周知するといったことが大きな課題だと思っている。そこも軸として考えていきたい。

会長> 不用品について、他自治体の市役所では、不用品の写真と住所が書かれていて、欲しい人は連絡するといったところがある。

市役所で情報板をつくることはできると思う。個人的に、あれやってこれやっていると行政に言うのは好きではない。事業所と連携し、場所をつくってもらうことが重要だと思う。事業所側もマイナスでなければ協力していただける。

おかしいところ、これができるのではと提案し活動する市民グループがあっても良いのでは。

委員> 東海道エコウォークで、いらないものを出しておいて交換してはどうか。

委員> 市のホームページをみてもらって、もっと活用できればいいと思う。

委員> ホームページに自治体掲示板があった。活用してもらえないのではないかな。

委員> ホームページでもっと案内できれば良いと思う。

会長> みんなアイデアを持っている。アイデアを具体化する市民グループが必要。

委員> 掃除をする人はいっぱいいるのに、アイデアを実現するグループがない。

会長> ぜひ委員に作っていただきたい。みなさんどうか。

この会議室もだが、日本の会議室は窓から入ってくる光をブラインドで遮って、ライトを明るくしている。窓から光を取り入れてほしい。

また、ライトについては、建築上特定のところだけ消すことが難しいところもある。配線から改善していく必要がある。

委員> 市役所だが、費用対効果はどうなのか。逆光で断熱も十分ではない。太陽光発電も十分に整備されていない。

各階の電気の使用状況を確認できるようになれば、意識も変わるのでは。

今回の計画に市役所の温室効果ガスの削減という表現があったので、結果がどうなるのか確認が必要。

会長＞ 1時間半が過ぎたが、他にはどうか。特にないようなので、審議を終わる。

その他

委員＞ おもてなしのお茶はありがたいが、マイボトルがあるので不要だと思う。この審議会から変わっていくことも重要。

会長＞ 前回の会議が終わってから、この会議から変えてみてはという話をした。ペットボトルのお茶を出さないことで、環境への配慮にもつながる。また、マイボトルを持ってきてもらうことで、お茶にかかるコストも削減できる。この会議からはじめ、市全体の会議が変わっていくと良いと思う。

事務局＞ 委員の皆様が良ければ、この会議でのお茶の提供はやめさせてもらう。茶業振興の側面もあるので、他の会議は検討する。

本日の議事録をホームページ上で公開したいので、公開前に議事録の確認をお願いしたい。

次回の審議会は、計画の草案を検討いただきたい。改めて連絡をさえてもらう。

○閉会あいさつ（職務代理者）

長時間にわたってご審議いただきありがとうございます。甲賀市環境未来都市宣言に新しく「環境を意識した行動ができるひとづくり」が増えた。ここから、「地球規模で考え、地域で行動する」という言葉を連想した。環境のまちづくりそのものだと思う。

3月という短期なスケジュールではあるが、甲賀市らしく、実効性のある計画案を作成してほしい。